

(敬称略)

● 基調講演



豊島 勝昭(とよしま かつあき)

神奈川県立こども医療センター新生児科部長、横浜市立大学循環制御医学教室客員准教授、東京女子医科大学周産期事業部非常勤講師

新潟大学医学部卒業。24時間365日体制の新生児集中治療室(NICU)で、スタッフとともに、妊娠・出産時のトラブルや早産により緊急医療を必要とする新生児の診療に取り組んでいる。全国のNICUの施設間差異を減らし、診療成績向上を目指す取り組みや、読売ジャイアンツ・村田修一選手とNICUプロジェクトを発足し、NICUの社会支援活動などを精力的に行っている。平成27年、ドラマ「コウノドリ」制作協力。



山本 哲哉(やまもと てつや)

横浜市立大学医学部脳神経外科学 主任教授

筑波大学医学専門学群卒業。2008年に小児脳腫瘍の会の「八ヶ岳合宿」に初めて参加して以降、小児脳腫瘍の会やNPO法人脳腫瘍ネットワーク(JBTA)の活動を応援している。専門は小児脳腫瘍・頭蓋底腫瘍の外科治療、粒子線治療。2016年5月に横浜市立大学に移り、同大学の小児科や神奈川県立こども医療センターの先生方と協力しながら小児脳腫瘍の診療にあたる。ゆっくりと時間をかけてお話しすることを心がけている。



森田 優子(もりた ゆうこ)

特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ ハンドラー

静岡県立大学看護学部卒業。国立成育医療センター(現 国立成育医療研究センター)に勤務した後、2009年より現職。ファシリテイドッグのベイリーと共に2010年から静岡県立こども病院で活動を開始、2012年からは神奈川県立こども医療センターに移り現在に至る。

ベイリー ファシリテイドッグ

オーストラリア生まれのゴールデン・レトリバー種の雄(10歳)。アメリカの育成施設アシスタンス・ドッグス・オブ・ハワイで専門的なトレーニングを2年間受けた後、森田とペアリングのための研修を経てファシリテイドッグに。

● シンポジウム



鍋谷 まこと(なべたに まこと)

淀川キリスト教病院、副院長、小児科部長

小児科医、1988年広島大学卒業後、神戸大学小児科に入局。初期研修後神戸大学大学院で神経生理学の研究。卒業後姫路市総合福祉通園センター主幹医師として、脳性麻痺や重心児など様々な困難さを持つ子どもの診療に8年間携わる。2003年から淀川キリスト教病院に就職、2010年から小児科部長、2012年11月にはこどもホスピス病棟を開設。現在14床のこどもホスピス病棟の責任医師としても日々の診療に従事している。



高場 秀樹(たかば ひでき)

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト 理事長、株式会社ワントゥーテンホールディングス取締役副社長。株式会社ナインブロック代表取締役社長

24時間見守りが必要なこどもを授かり、生き辛さや孤独を感じる中、2009年、英国のこどもホスピスを知る。そこには、地域で暮らす人々が、当たり前を支え合う成熟した文化が根付いていた。日本に無いなら作ろうという思いから2010年に団体を設立。地域における小児緩和ケアをテーマに地道な活動を続ける。2016年、大阪の鶴見緑地公園にTSURUMI こどもホスピスを開業。



水谷 綾(みずたに あや)

TSURUMI こどもホスピス ゼネラルマネージャー

前職(前・大阪ボランティア協会事務局長)時代に、こどものホスピスプロジェクトの取り組みに出会い、プロジェクト支援を通じたつながりから、現職に。今後、日本各地にコミュニティ型のこどもホスピスが広がっていくよう、現在はそのモデルづくりに注力しているところ。



内多 勝康(うちだ かつやす)

国立成育医療研究センター「もみじの家」 ハウスマネージャー

東京大学教育学部卒養後、NHKに入局。30年間アナウンサーとして「首都圏ネットワーク」「NHKスペシャル」「クローズアップ現代」等のキャスターを務め、阪神淡路大震災や東日本大震災の緊急報道にも携わる。2016年にNHKを退職し、国立成育医療研究センターに新設された、医療的ケアが必要なこどもと家族のための短期入所施設「もみじの家」のハウスマネージャーに就任。社会福祉士の資格を持つ。



佐藤 貴虎(さとう たかとら)

一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト 代表理事、旭川大学短期大学部幼児教育学科 教授

上智大学文学部教育学科(学士)、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了(修士)、The University of Manchester 修了(博士)。難病とともにある子ども達、その家族の心理社会的支援を研究。在英時代、マンチェスターのこどもホスピス・フランシスハウスにてボランティア活動に携わった経験をいかし、TSURUMI こどもホスピスの保育部門の立ち上げに関わる。現在は「Make A Wish of Japan」のボランティア活動などにも参加している。



濱田 裕子(はまだ ゆうこ)

NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト 代表理事、九州大学大学院医学研究院 准教授

聖路加看護大学卒業後、淀川キリスト教病院等で看護師・保健師を経て、看護教育に携わる。高知女子大学大学院修了。専門は小児看護学、家族看護学。2006 年より九州大学大学院で看護学教育、学際教育に関わりながら病気や障がいのあるこどもの支援に携わり、2014 年からは福岡にこどもホスピスの設立をめざす NPO 法人として活動している。近著に「空にかかるはしご～天使になった子どもと生きるグリーンサポートブック～」(九州大学出版会)。



柳澤 隆昭(やなぎさわ たかあき)

東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座 教授

脳脊髄腫瘍、眼部腫瘍を専門とする小児科医。治癒困難な腫瘍の救命の道を見いだすこと、更に腫瘍・治療による障害を最小限にして quality of life (QOL:生活の質)を向上させる治療を開発すること、こども達やご家族の直面するあらゆる問題に対応し生涯にわたり支援することが可能なトータル・ケアを確立することを目標に診療・研究を続けている。



副島 賢和(そえじま まさかず)

昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授

東京都公立小学校教諭として 25 年間勤務。内 8 年間品川区立清水台小学校「昭和大学病院内さいかち学級」担任。2014 年 4 月より現職「昭和大学病院病弱児教育」担当。学校心理士スーパーバイザー。ホスピタルクラウン。大阪 TSURUMI こどもホスピス教育部門担当。2011 年 NHK プロフェッショナル仕事の流儀出演。著書に『心が元気になる学校』(プレジデント社/16 年)他。



田川 尚登(たがわ ひさと)

NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事

2003年 NPO 法人スマイルオブキッズを設立。横浜市南区にある県立こども医療センターで病児やきょうだい児、家族支援に関わり、2008年募金で集めた建設資金で全国から難病等の治療に来られる子どもと家族の宿泊滞在施設「リラのいえ」を開設。また2020年までに横浜に小児がん等で命の脅かされた子どもと家族のための在宅支援施設「こどもホスピス」の開設を行政や地域の支援者とともに目指している。

● 司会



加藤 希(かとう のぞみ)

日本小児がん研究グループ(JCCG)東京オフィス広報室

毎日新聞社などを経て、現職。JCCG ニュースレターを担当するなど、小児がん研究支援活動を行っている。故 加藤旭君(脳腫瘍と闘いながら作曲を続け、16歳で逝去)の母。